

東彼杵町の 今

小さくても
誇りを持って
輝く町

皆が「丸」になって、「ここに住んでよかった」「ここに住みづきたい」と思える町づくりが進められています。豊かな自然、悠久の歴史、人々の絆……たとえ小さくてもキラキラ輝いていたい、東彼杵町なのです。

生活様式や価値観の多様化、急激な国際化など、社会はめまぐるしい変化を続けています。私たちの町も、時代の流れの中に、ゆっくりとその姿を変えながら歩んできました。激動の昭和、世紀をまたいで三十年の歴史に幕を下ろした平成、そして迎えた令和の時代……。東彼杵町では、平成二十六年に策定された「第五次東彼杵町総合計画」が進行中です。

今この時のかけがえない瞬間、人々の笑顔の輝きを刻みつけて次代に引き継いでいくこと。これこそが私たちの使命だと思います。



▲かっぱの川まつり(彼杵川かっぱ公園)



▲やすらぎの里桜まつり(河川公園やすらぎの里)

交 流

住民がみずから考え、行動していく自発的な町づくり。一人ひとりの顔が見える豊かな交流が、地域の連帯意識を育みます。

■住民主体の地域づくり

活力ある地域づくりに積極的に取り組んできた私たちの町でも、全国的な傾向である人口減少は避けられないのが現状といえます。予想を上回る速さで進む少子高齢化の波にのまれることなく、町に暮らすすべての人が健やかな毎日を送れるよう、仕組みづくりが推進されています。

東彼杵町では、地域コミュニティ活動への支援を進めていくと同時に、交通の要衝としての立地を生かして、たくさんの人々が訪れる活き活きとした「交流の町」の実現を目指します。町民が主体的に考え、話し合う中に、たくさんアイデアや実りある活動が生まれています。

■各地区の特色を活かした ふれあいイベントの数々

春季の「やすらぎの里桜まつり」(里地区)、夏季の「ホテルまつり&コンサート」(八反田地区)、カヌーやいかだ体験で暑さを吹き飛ばす「かっぱ

の川まつり」(彼杵川下流域)、「深澤様中岳夏祭り」や「バス釣り大会」(中岳地区)、「太ノ原千燈籠まつり」(太ノ原地区)や、収穫の季節の「新米フェスタ」(蕪地区)、音琴活性協力隊が企画する「音琴秋まつり」(音琴地区)など、住民どうしで作り上げ、参加して楽しむさまざまなイベントは、地域おこしや集落機能の維持にもひと役買っています。



▲ ホテルまつり&コンサート



▲ 深澤様中岳夏祭り



▲ 音琴秋まつり 琴の音フェスタ



東彼杵町
の今
2

産 業

魅力ある町づくりは活気ある産業づくり。ベテランたちの経験と知恵を、次世代の若き担い手へ……伝統を守りつつ、新たな産業の創出を目指します。

産業振興で地域活性化へ

自然に恵まれた東彼杵町は、古くからお茶や米、みかんなどを生産する農業の町として発展してきました。また、県下有数の人工林地帯での林業、大村湾の恵みを受けての水産業も、町の第一次産業を支えています。工業においては、既存企業への支援とともに、さらなる企業誘致等による雇用促進を目指しています。

商業・観光業では「一流の田舎東彼杵」をキャッチフレーズに、地域の特色を生かした魅力あふれる東彼杵町を、県内外にまで情報発信しています。

町外へ広がる交流

連日の賑わいを見せる道の駅「彼杵の荘」や、既存施設を活用した新たな拠点を中心に人の流れを生み出している千綿地区。町をあげて盛り上がる、「そのぎ茶市」や「うまかもんフェスタ」等の大型イベントなど、町外県外からの来訪者も増加しています。

近隣の町との交流も豊かに

東彼杵郡には東彼杵町・川棚町・波佐見町の三つの町があります。これら三町の中学生たちが競い合う「東彼杵郡中体連」を始め、六月の「東彼合唱祭」、開催六十回を超える秋の「東彼杵郡民体育大会」など、郡全体の繋がりが密接です。



2



1



3



4

1 2 うまかもんフェスタ 3 東彼杵郡中体連 4 東彼合唱祭

米どころ 木場のむすび

平成三十年（二〇一八）七月、地域おこしグループ「木場みのりの会」が農産物加工直売所「米どころ木場のむすび」を広域農道大村湾グリーンロード沿いにオープンしました。土曜と日曜の限定営業で、新たな交流拠点として期待されています。



農業

そのぎ茶を中心に



そのぎ茶

伝統を、日々、新しく。

大村湾(青)、新芽・未来(薄い緑)、山(濃い緑)、町民の心の温かさ・大村湾に沈む夕日(オレンジ)を表現し、東彼杵町の地域性・地理性を体現したそのぎ茶の新ロゴマーク。

日本一のそのぎ茶のさらなるブランド力向上へ

東彼杵町の基幹産業である農業。中でも、ふくよかな味わいの「そのぎ茶」は、今や東彼杵町の代名詞ともいえる発展を遂げています。

陽光を受けながら山肌に広がる緑の茶畑は約四〇〇ヘクタール。長崎県の荒茶生産量の約六割を占め、第七十一回(平成二十九年)、第七十二回(平成三十年)の全国茶品評会において二連続の農林水産大臣賞および産地賞を受賞し、さらに消費者が選ぶ日本一美味しいお茶コンテスト日本茶 AWARD においても、平成二十九年(二〇一七)・平成三十年(二〇一八)と二連続、通算三度目の日本茶大賞を獲得するなど、全国で最も注目されている茶産地となりました。

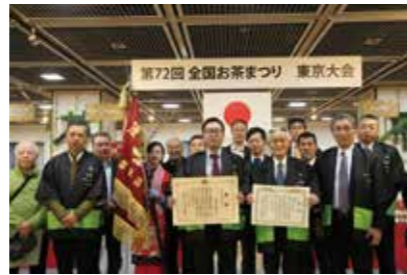
これらの輝かしい受賞歴におごることなく、生産者・茶商・行政が三位一体となって、そのぎ茶のさらなるブランド確立を目指します。



▲日本茶 AWARD2018 日本茶大賞受賞



▲乗用型摘採機による収穫の様子



▲第72回全国茶品評会
2年連続2冠達成(平成30年)

そのぎ茶の軌跡

(江戸後期以降)

江戸
嘉永六年(一八五三)
大浦慶、釜炒り玉緑茶の見本を輸出
安政六年(一八五九)
大浦慶、嬉野・彼杵などの釜炒り玉緑茶を輸出

明治・大正
明治二十八年(一八九五)
田島福次郎、里郷に田島農園をつくる
明治三十三年(一九〇〇)
長崎県の茶業研究所を彼杵村に設置
大正十四年(一九二五)
田島福次郎、製茶工場をつくる

昭和
昭和十年(一九三五)
赤木原に110haの畑が完成
昭和三十四年(一九五九)
長崎県茶業生産者大会を町公民館にて開催
昭和五十三年(一九七八)
県営赤木地区農用地開発事業竣工
昭和六十二年(一九八七)
そのぎ茶振興協議会発足、本格的銘柄確立へ

平成
平成三年(一九九一)
そのぎ茶振興感謝祭開催

平成十五年(二〇〇三)
第四十二回農林水産祭 地域特産部門内閣総理大臣賞受賞(大山次作氏)
平成二十二年(二〇一〇)
第四十九回農林水産祭 地域特産部門天皇杯受賞(松尾政敏氏)

平成二十三年(二〇一一)
世界緑茶コンテスト 最高金賞&パッケージ大賞(TSUNAGUSONOGITEAFARMERS)
平成二十六年(二〇一四)
日本茶 AWARD 2014 日本茶大賞受賞(有茶友松尾政敏氏)

平成二十八年(二〇一六)
日本茶 AWARD 2016 日本茶大賞受賞(有西海園 二瀬浩志氏)
平成二十九年(二〇一七)
第七十一回全国茶品評会(長崎県開催)・農林水産大臣賞(尾上和彦氏)、産地賞(東彼杵町)を受賞し、そのぎ茶が日本一に
日本茶 AWARD 2017 日本茶大賞・農林水産大臣賞受賞(有岡田商会 岡田金助氏)

平成三十年(二〇一八)
第七十二回全国茶品評会・農林水産大臣賞(福田新也氏)、産地賞(東彼杵町)を受賞し、二年連続二冠で日本一に
世界緑茶コンテスト 最高金賞&パッケージ大賞(TSUNAGUSONOGITEAFARMERS)
日本茶 AWARD 2018 日本茶大賞・農林水産大臣賞受賞(有茶友 松尾政敏氏)
平成三十一年(二〇一九)
碾茶工場落成(株)FORTHES 福田新也氏

畜産業

愛情いっぱい育てた
長崎和牛



▲▼品質に定評のある長崎和牛



◀▲農業に適した温暖な気候の中、さまざまな作物が実る

地域色豊かな農業を

東彼杵町の農業の主要作物は、お茶のほか、イチゴ、アスパラガス、みかん、びわ、水稲などがあげられます。

農業従事者の高齢化が進む中、国や長崎県の基本方針との連携を図りながら、地域の特性や生産者のこだわりを活かした東彼杵町らしい農業の実現を目指します。

イチゴについては、約四十戸、八ヘクタールで栽培され、収量が安定している品種「ゆめのか」への栽培品種転換を進めながら、施設設備の近代化を図られています。

アスパラガスは、約三十戸、四ヘクタールで栽培されています。移住者を中心に新規参入者も増加しており、施設設備の長寿命化、反収増に向けた取り組みがおこなわれています。

ミカンについては、約六十戸、三十二ヘクタールで栽培されています。ここ二十年で戸数・生産面積も大幅に減少しましたが、近年、長崎県全体のみかん販売単価が全国一位になるなど追い風が吹きはじめっており、計画的な基盤整備と樹齢構成、高品質果樹の安定生産に向けた取り組みがおこなわれていると見られます。

経営の効率化

肉用牛（繁殖・肥育）は約三十戸にて、千三百頭が飼養されています。

生産資材の高騰や高止まりが畜産経営を圧迫する中において、JA繁殖・肥育牛部会を中心に飼養管理技術の向上が図られています。

繁殖経営においては、素牛安定供給に向けた優良雌牛の確保、肥育経営においては、上物率向上および枝肉重量増加のための取り組みがおこなわれ、また、国庫事業を活用した畜産ラクスター事業などコスト削減と経営の効率化が図られています。

現在、県央農協独自ブランド「長崎和牛PREMIUM県央」の確立に向け、組織一丸となった取り組みがおこなわれています。



林業

計画的な森林づくり



1 千綿中学校生徒の森林体験授業

2 昭和30年から継承される彼杵小学校林

県下有数の人工林地帯

森林は東彼杵町総面積の五十四パーセントを占め、うち人工林が七十三パーセントに達しており、県下でも有数の人工林地帯を形成しています。

林道の整備や作業の集約化の遅れ、材木価格の低迷や過疎化・高齢化による労働力不足が大きな課題です。

町の資産である豊かな森林資源を維持・継承していくために、彼杵小学校林での活動、各学校での森林学習などの取り組みがおこなわれています。

水産業

大村湾の水産資源の維持



漁業就労者の減少

平成十七年（二〇〇五）、東彼杵町漁業協同組合は大村湾南部漁業協同組合と合併し、大村湾漁業協同組合となりました。

東彼杵町の漁業経営体（漁協正組合員）は、高齢化の進展や漁獲量の低迷に伴って年々減少し、現在では二十五戸となっています。ほとんどが三トン未満の小型動力船で、主に小型底曳き網・刺網・はえなわ漁業を営み、鯛類・イカ類は市場に、ナマコはほとんどが漁協を通じ特定業者に出荷しています。

町では、漁場環境の改善、放流事業などを継続するほか、水産多面的機能発揮対策事業、漁業就労者確保育成対策事業を進めています。特に後継者確保については、最重要課題と位置付けて各種施策に取り組んでいるところです。

漁業生産の安定拡大と水産資源の維持増大を図るため、町では、漁港の維持改修や、閉鎖海域である大村湾の環境保全等を進めています。



▲音琴漁港保全工事

地域性豊かな店舗と
魅力ある商品を



▲道の駅「彼杵の荘」物産館

交通環境を活かした商業展開へ

人々の生活を支える商店は、日常の買い物以外にも、交流や集いの場となるなど多面的な機能を有しています。活気溢れる商店街は、町全体を元気にしてくれるものです。

近隣の佐世保市や大村市の商業圏にあり、個人経営の商店が多い東彼杵町は、店舗数・従業員数・販売額ともに減少を続けていますが、その中で、道の駅「彼杵の荘」には連日多くの人が訪れています。

利便性の良い交通環境のもと、町内外から人が訪れてくれるような、地域性豊かな魅力ある商品・店舗を展開すべく、町では、起業や企業進出のための支援、空き店舗活用奨励金事業等をおこなっています。



お茶とくじらのまち

「お茶とくじらのまち」を標榜する東彼杵町。日本一のブランドとなったそのぎ茶は、茶ちゃ焼きやそのぎ茶ソフトクリームほか、魅力的な関連商品も次々と開発されて好評を博しています。

もうひとつの町の代名詞である鯨については、わが国の国際捕鯨委員会脱退が決定するなど、近年特に注目が高まっています。

江戸時代、深澤儀太夫の鯨組が近海で獲った鯨は、長崎街道の要衝である彼杵宿で陸揚げされて、各地へ流通していきました。現在でも月に一度、彼杵鯨肉株式会社で鯨肉の入札会がおこなわれています。



全国鯨フォーラム
2018
東そのぎ



平成三十年（二〇一八）十一月十三日、東彼杵町では初めての開催となる「全国鯨フォーラム」が開かれています。全国の捕鯨にゆかりのある自治体関係者らが見聞を交わし、後半では東京海洋大学の森下文二教授による「商業捕鯨の未来」の講演がおこなわれました。参加者たちにとっては、問題意識を新たにするとともに、知見を広げる貴重な機会となりました。

会場の東彼杵町総合会館では、地元婦人会が作った鯨の郷土料理の試食会もあり、竜田揚げや酢みそ添えを味わう、参加者の姿も見られました。



工業

雇用創出による
若者人口の拡大へ



▲▼長崎県営工業団地「グリーンテクノパーク」入口



1 グリーンテクノパークと 2 赤木工業団地
背後には虚空蔵山が見える

交通アクセスの便利さ、
利点を活かして

長崎自動車道東そのぎインターや彼杵港にも近く、長崎空港へのアクセスも優れた東彼杵町。今後も町への誘致を積極的に進めていくことにより、雇用の場の拡大やUターン・Iターン者の就業の場の確保、若者の定住促進、地場企業との関係による地域産業基盤の底上げなど、さまざまな波及効果も期待されています。

企業誘致促進による
地域産業基盤の強化

平成六年（一九九四）より分譲開始された長崎県営工業団地「東そのぎグリーンテクノパーク」には、I-T関連企業の（株）ツジデンを始め、自動車及び航空機器関連企業、工業用製品・精密機械部品製造企業など計八社が立地しています。

また、海を望む高台、茶畑に囲まれた町営赤木工業団地には、自動車関連企業、及び住宅建材加工企業の二社が立地しています。

ものづくりに携わる
人材の育成

東彼杵町の工業は、平成二十九年（二〇一七）の工業統計調査によると、従業員四人以上の事業所は十七事業所で五百八十三人、製造品出荷額は八十七億五千万円となっています。

町の工業のさらなる発展のため、工業適地の確保や生産基盤づくりの推進とともに、地場企業等の既存の企業における人材育成への支援策も充実させていきます。



「一流の田舎 東彼杵」
に向けて



▲町内外からたくさんの人で賑わう「そのぎ茶市」



▲農作業を体験する米国からの大学生

体験型観光の提案

東彼杵町では、町の特色を活かして、従来型の見学中心の観光のほかに、農家民泊などの交流・体験型観光コンテンツの充実と周知に努め、広く町外へ新しい余暇の過ごし方を提案しています。

お茶農家を中心に、平成二十六年（二〇一四）よりグリーンテイルリズムとして来訪者の受け入れが始まった活動は、参加者の好評を得て、少しずつ広がりを見せています。

観光プログラムの充実

自然豊かで、歴史文化・特産品などさまざまな特色のある私たちの町は、観光資源に恵まれているといえるでしょう。

町では、平成二十九年度より三カ年計画として、「一流の田舎 東彼杵」に向けた観光コンテンツ開発とおもてなし事業」に取り組んでいるところです。交通の利便性を活かし、町外の人々が何度も訪れたくなるプログラムの充実や観光地・施設の整備を進めています。

現在、道の駅「彼杵の荘」は、国土交通省の重点道の駅として再整備が進められています。また、東彼杵町観光協会を引き継いだ「ふるさと交流センター」は、道の駅に隣接した歴史民俗資料館内に置かれ、観光情報の発信やイベント企画、グリーン・ツーリズムの事務局、移住・定住促進のための事業などをおこなっています。



1



2

1 茶摘み体験 2 製茶工場見学

JR千綿駅を拠点とした
周遊を楽しむ

大村湾に面したレトロな佇まいの駅として、かねてより鉄道ファンの間で有名だった千綿駅。

千綿地区では、「長崎県二十一世紀まちづくり推進総合支援事業」を活用して、多くの来訪者に千綿駅周辺の周遊を楽しんでいただき、小さな経済・産業を生み出すべく、地域の活性化を図っています。

近年はSNSへの写真の投稿も増えるなど話題を呼び、住民参加のワークショップで集められた活性化のアイデアを形にしながら、千綿駅を拠点とした人の流れを作り出しています。



▲情報誌「ちわたから」



▲高齢者と幼児の交流



▲NPO 法人おんぶにだっこ主催「すくすくねんね」



▲一般介護予防事業「よんなっせ」の様子



▲東彼杵町総合会館



▲食生活改善推進員研修会



▲各地区で開催される敬老会

「健康で生きがいある暮らしを育む東そこのぎ」へ、官民一体となってさまざまな体制作りに取り組んでいます。

健康東そこのぎ21

健康は幸せな生活の基盤です。東彼杵町では、平成二十七年より十カ年計画の「健康東そこのぎ21（第二次）」に取り組みながら、町民の健康増進のため、各世代に応じた保健予防活動に努めてきました。

生活習慣病対策としては、町民の特定健康診査の受診率七十五パーセント（令和六年）を目標に、健康寿命の延伸を進めていきます。

すべての町民が生涯を通じて健やかに暮らせるように、広報紙等での啓発活動をおこない、家庭・地域・学校・職場などで健康や福祉への意識の向上に努めています。

地域包括ケアシステムの充実

高齢者一人ひとりが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを終生続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築・充実を図ります。在宅医療・介護連携の推進、認知症予防施策の推進、地域ケア会議の充実、生活支援サービス

の充実に向けて取り組んでいます。高齢者人口が増加する中、関係機関と連携し、取り組みを進めています。

子育て支援

町の未来を担う大切な子どもたちの健やかな成長のために、「東彼杵町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、安心して子どもを産み育てることのできる環境作りを進めています。

認定こども園を中心とした幼児教育・保育の充実、学童保育や一時預かり事業、子育て支援拠点事業、ひとり親家庭への支援など、多様なニーズに対応できる体制づくりを目指します。

明るく健やかな
笑顔のために



▲町営新白井川団地



▲そのぎ茶市をパトロール中の民生委員・児童委員



▲避難所へ直結する歩道の設置(下三根地区)



▲東彼杵地区清掃工場(川棚町)



▲電気自動車充電スタンド



▲平似田・太ノ浦線完成(平成29年)



▲5つの路線で町内をカバーする町営バス

安全安心な町づくり

自然豊かな美しい景観や、人間味豊かで素朴な町民性は、東彼杵町の宝です。町では、良好な生活環境のために、安全安心で快適な町づくりを進めてきました。

住宅環境や道路の整備、施設の老朽化対策、上下水道事業の推進、廃棄物処理、防災等情報システムの運用、森林計画など、行政と町民、事業者が一体となって、取り組んでいます。

消防団活動、地域コミュニティ主体の防災訓練などを通じ、日頃からの防災意識を高め、リサイクルや省エネルギーなど、環境問題に関しての町民への啓発活動にも力を入れています。

町営バス

自動車での移動が主要な交通手段となつて久しい東彼杵町。民間の路線バスの廃止に伴い、高齢者や子どもなど交通弱者対策として、平成十六年(二〇〇四)より町営バスを運行しています。

お茶の葉やクジラ、東彼杵らしいデザインが施されたバスが、町内各地や近隣の大村市・川棚町まで、彼杵線、千綿線、大野原高原線、東部循環線、川内線の五路線で繋いでいます。

交通網の整備

交通の要衝・東彼杵町の道路交通網は、長崎自動車道を始め、国道三十四号、二〇五号、一般県道、町道、広域農道で構成されています。

住宅地以外にも農村部や民家のほとんどない山間部まで、起伏に富んで広がる町全体を網羅する町道・広域農道の整備・維持管理を推進し、さらに地域高規格道路「東彼杵道路」の早期実現を目指します。

上下水道事業

東彼杵町の平成二十九年度末の汚水処理人口普及率は、八十四パーセントとなりました。

上水道・下水道・農業集落排水事業・漁業集落排水事業ともに、人口減少にもない料金収入が減少し、施設設備の老朽化への対応に課題を抱えているのが現状です。今後は、上下水道事業を公営企業会計へ移行し、さらなるコスト管理と料金の見直し、施設機器の更新を進めていきます。

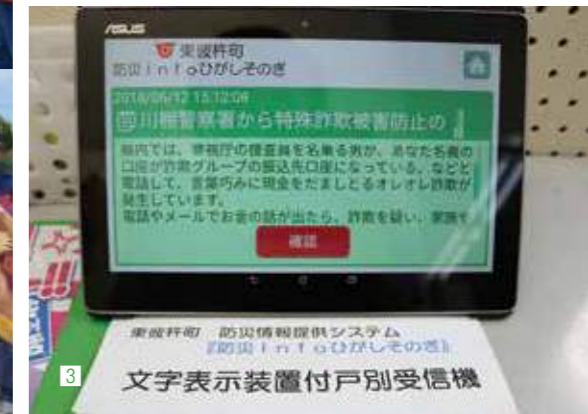
豊かな水と緑に恵まれた東彼杵町の美しい環境を守り維持し、大村湾を浄化するためにも、私たち東彼杵町は、下水道への接続率向上と、下水道未普及地区の早期整備、区域外地域の合併浄化槽の設置の推進に努めます。



彼杵川の河川調査をする
東彼杵清流会と児童▲▶



▲消防団 夏季総合教育訓練



1 家庭のTVで利用できるNBCデータ放送 2 光回線を利用した「茶子ちゃんねる」 3 戸別受信機での音声情報「防災infoひがしそぎ」 4 地域ごとにおこなわれる避難訓練（下三根地区） 5 平成28年にポンプ操法大会に出場した町消防団第5分団



▲平成30年 安全・安心まちづくり長崎大会で
表彰された中岳自警団

自然との共存を目指して

大村湾や豊かな湧き水、川の流れ。町を抱くように背後にそびえる山々。これら、かけがえのない自然の姿を可能な限り維持継続しながら、町の暮らしの利便性も高めていく……という難しい舵取りが求められています。

行政としての取り組みと合わせて、町民一人ひとりの意識も大切です。彼杵川の環境を守る東彼杵清流会など民間の活動も生まれています。

安全・安心
快適な
暮らしへ

自分たちの町を守るために

地域の消防防災のリーダーとして、住民の安全と安心を守る東彼杵町消防団。八ヶ分団で編成され、団結強く活動しています。

一方で、地域有志による自警団を組織し、防犯パトロールを実施するなど、自分の町は自分で守るという意識も強く根付いています。

情報提供と情報共有

町民と行政との情報共有は、平時・非常時にかかわらず、地域コミュニティ形成において大変重要です。

過去二十八年間にわたり親しまれてきた、電話回線を利用したN.T.Tのオフトーク通信放送が平成二十九年度をもってサービスを終了しました。代わって、テレビを利用して誰でも見られる地域情報のNBCデータ放送や、光回線を利用してインターネットにアクセスする「茶子ちゃんねる」、平成三十年（二〇一八）からは音声による防災情報を戸別受信機で受ける「防災infoひがしそぎ」が運用され、町民生活に役立てられています。

教育



2



1



4



3



1 学習教室「未来塾」 2 4名のALTと学ぶ「英語でしゃべらナイト」 3 4「コスモス大会」講座と閉講式

▲東彼杵町立彼杵小学校

東彼杵町は、学校と地域が一体となって子どもたちを健やかに育む
コミュニティ・スクールを推進しています。



▲米作りを学ぶ児童



▲地域を知るための総合学習(千綿中学校)

地域に根ざした コミュニティ・スクール

少子化の流れが進む中、平成二十八年度に東彼杵町立音琴小学校と大楠小学校が彼杵小学校に統合されたことに続き、平成三十一年度より、彼杵中学校と千綿中学校が統合された「東彼杵中学校」が新たな歴史を刻みはじめました。
現在、彼杵小学校・千綿小学校・東彼杵中学校の三つの小学校と中学校は、学校と地域が一体になって児童生徒を育むコミュニティ・スクールを実践しながら、皆で子どもたちの健全育成に取り組んでいます。また、IT環境でのシステム変更による機器の更新も順次進められています。

子どもたちの未来のために

毎月第三日曜日のノー部活デーを活用して、町学習教室「未来塾」が無料で開催され、子どもたちの学力向上の一助となっています。
また、未来を担う子どもたちに広い視野を養わせる国際交流事業として、東彼杵町の児童生徒を海外へ派遣する取り組みもおこなわれ、成果をあげています。

生涯教育の充実

人々の心身の健康や生きがいを考えるうえで、生涯教育の充実が重要です。
スポーツクラブひがしそでのぎ、高齢者コスモス大学など、老若男女さまざまな立場の人々が楽しみながら活動中です。
月に一度の大人のための英会話教室「英語でしゃべらナイト」も、町内学校のALTの方々の協力のもとに楽しく開催されています。

地域に
根ざした
教育事業

スポーツ振興



1



▲お茶畑ロードレース大会 (赤木地区)



3



2

- 1 町民綱引き大会 (彼杵児童体育館)
- 2 バドミントン大会 (彼杵児童体育館)
- 3 第18回ソフトボール全国中学男子大会にて2年ぶり6回目の全国制覇を果たした「長崎KSC」の選手たち (平成30年)

駅伝大会、綱引き大会、お茶畑ロードレース大会、ヘルシーウォーク……大人も子どもも力いっぱい、町をあげて盛り上がるスポーツイベントもたくさん。

■ スポーツで健全な町づくり

住民一人ひとりのパワーが、活気あふれる地域コミュニティの原動力です。
東彼杵町では、これまで「スポーツを通じた町づくり」の指標のもとに、体育活動を奨励してきました。その結果、町民がスポーツに関わることのできる環境が整い、子どもたちから高齢者まで、世代や性別に分け隔てなく、好きな競技に打ち込んだり楽しんだりしています。
多岐目から自由に選んで参加できるスポーツクラブがしそのほかに、長崎県大会や全国大会で優秀な成績をおさめる個人やスポーツ団体も生まれ、スポーツ活動がますます盛んになっています。

■ スポーツ施設

町のスポーツ施設としては、小・中学校付属施設のほか、彼杵児童体育館・千綿児童体育館・町民グラウンド・新港グラウンド・そのぎシーサイド公園があり、各所にて町民たちが笑顔で体を動かし、汗を流す姿が見られます。



▲新港グラウンド



▲彼杵児童体育館

誰でも気軽に
スポーツを
楽しめる町



▲千綿祇園祭



▲蔵本浮立



▲長崎県指定無形民俗文化財「坂本浮立」



▲千綿人形座サポーター



▲東彼杵町歴史民俗資料館の企画展



▲東彼杵町総合会館文化ホール「グリーンハートホール」



受け継がれてきた伝統文化は私たちの財産。大切に守っていくことで、時代のニーズに合わせた新たな町民文化が生まれます。

心の豊かさを育む

人々の価値観が多様化している昨今、これまで以上に精神的な生きがいや心の豊かさが求められています。

平成十三年（二〇〇一）に完成した東彼杵町総合会館文化ホール「グリーンハートホール」では、講演会やシンポジウム、音楽イベント、人形浄瑠璃公演などさまざまな催事がおこなわれ、ふるさと芸術大会、東彼合唱歌祭など住民参加の文化行事を通じて人々の交流も活発です。

高齢者向けのコスモス大学や各種サークル団体、各地区の地域色豊かな活動もあり、伝統文化の継承とともに、新しい文化も生まれています。

ふるさと文化の発信地

歴史公園「彼杵の荘」にある東彼杵町歴史民俗資料館では、郷土の長く豊かな歴史を物語る数多くの展示物が紹介されています。折に触れてさまざまな企画展を開催するなど、学習の場を提供するとともに、新しい文化の発信地としても大きな役割を果たしています。

伝統文化を後世へ

三百五十年余りの伝統をもつ坂本浮立は、県の無形民俗文化財指定を受けた長崎県を代表する民俗芸能です。大村藩の御用浮立として伝承され、雨乞い、豊年祝い、祭礼などにおこなわれ、よく古風を伝えています。

蔵本浮立は江戸末期に始まったと伝えられ、彼杵祇園祭などに奉納され継承されています。

同じく江戸期より受け継がれてきた千綿人形浄瑠璃は、かつては県内外で上演されていました。戦後は高齢化、後継者不足により幾度も危機を迎えながらも、平成二十八年（二〇一六）、町の支援で有志による千綿人形座サポーターが結成されました。千綿人形芝居のルートである淡路人形浄瑠璃の「淡路人形座」メンバーの指導のもとに、練習を積みながら公演活動をおこなうなど、郷土の伝統を受け継いでいます。

文化活動の推進と
伝統の継承

ずっとこの地に暮らす人、新しく町の仲間になった人……
すべての人を大切にする町づくり。

東彼杵町役場・千綿支所

新しい時代を迎えても、行政の役割は住みよい東彼杵町をつくっていくことです。解決していくべきさまざまな課題はあるものの、町民と協働し、今日と明日そして未来を見据えて、役場職員一丸となって取り組んでいます。

業務は戸籍事務や福祉、保健衛生、教育、税務といった日常の暮らしに身近なものから、生活・産業基盤の整備や、長期に及ぶ地域づくり計画等多岐にわたっています。



▲▼東彼杵町役場

東彼杵町議会

町民の代表である町議会は、代表として選ばれた十一名の議員で構成され、町政運営の基本方針や予算、条例などを審議、決定しています。議会は年四回の定例議会と、必要に応じて臨時議会が開催されており、総務厚生、産業建設文教、議会広報編集の三つの委員会の担当分野で活動しています。

令和時代の幕開けは、平成三十一年（二〇一九）四月の統一地方選挙で選出された、新町長以下十一名の町議会議員の新たな体制にて、令和元年（二〇一九）五月二十二日より町政を担っていくこととなりました。

笑顔あふれる
住み良い町を
目指して



▲任命を受ける岡田伊一郎新町長



▲平成31年4月21日におこなわれた町長および町議会議員選挙にて選ばれた11名の東彼杵町議会議員



▲▶東彼杵町役場千綿支所

